

令和 5 年度最初の情報発信となりました。久しくご無沙汰しております。相変わらずコロナ対策を意識した生活です。必要最小限の外出を守っています。

毎週、水曜日及び木曜日に出席する中国語および英語の会話への出席、当事務所の道路沿いに流れる溪流住吉川河畔での日常の散歩が主な日程になっています。散歩は毎日、6000 歩～7000 歩で、健康維持に役立っています。住吉川では、去年 12 月頃には、群になって泳ぐ鮎の稚魚を見かけました。その頃の暖かさに比べると、令和 5 年になっての 1, 2 月は本当に寒い日々が続きます。

前情報発信 100 号のときにもご報告した「さびの基本と仕組み」の第 3 版執筆を続けています。前回の第 2 版の内容を 40%くらい刷新したい思惑で、この目標に沿っての執筆に苦勞しているのが現実です。内容をやさしく、かつ、執筆者の腐食防食における経験と発想を盛り込みたいと思っています。

今回、毎週出席している英会話教室についてご紹介します。先生は米国人の Loyd Flaherty 氏で、牧師でもあり、奥様は日本人です。生徒は 10 人で、4 名が米国での生活経験があります。21Century Reading (Creative thinking and reading with TED TALKs)を教科書として使い、自由に発言できる授業です。この数年やってきて、会話力は多少は上がったかなと思っています。

今話題になっている AI による論文作成の技術についてです。質問に対して、迅速に対話形式で回答できる技術です。私もこの技術を、先週の木曜日の授業後、Flaherty 先生と 30 分ほど会談しているときに、私の目の前で彼がこの技術を使って当方の質問に英語で対応してくれました。この技術は、チャット GPT と呼びます。ご参考に、日本経済新聞によるこの技術の一端をご紹介します。もし、すでにご存知のときは、読み流してください。私の感想としては、この技術を有効に活用すれば、技術調査や論文作成において非常に有効になると思いますし、同時に、偽情報に騙されないように正しい判断力が重要になるかと思われます。

特別報告

チャット GPT の紹介記事 （日本経済新聞による記事）

- 1) 人工知能「チャット GPT」の文章力検証（2023. 2. 4 朝刊）
- 2) 社会は生成 AI の進化にどのように向き合うか（2023. 2. 3 朝刊社説）
- 3) AI, 対話型検索で身近に（2023. 2. 9）

人工知能(AI)「Chat (チャット) GPT」が2022年11月に無料で公開され、世界中で話題になっている。文章力を検証するため、あえてニセ記事を書かせたうえで「デスク」と呼ばれる編集担当のベテラン記者に読んでもらった。記事の「完成度」は高く、使い方を誤れば報道の秩序すら揺るがしかねないツールだとわかった。

ニセ記事の設定は、43代の米大統領だったブッシュ氏のテキサス州の自宅に保管されていた機密文書を愛犬が食べてしまったという内容だ。足元ではバイデン大統領のほか、トランプ前大統領、ペンス前副大統領の自宅で機密文書が相次ぎ見つかり騒動になっている。

人工知能「チャットGPT」の文章力検証

20秒で記事作成、上司驚き

有名人の口調・ジョークも

ChatGPTの画面に入力し、英文の記事作成までにかかった時間は20秒ほど。まるでリアルタイムで書いているように、少しずつ文字が画面に表示される。実在する米通信社の匿名記者がブッシュ氏からブッシュ氏の声明を配信した形だ。記事の前半で、機密文書の保管規則を本人が「知らなかった」という点からいふこと。出来映えは10点満点で7点くらいのこと。

「(愛犬の)バーニーは」

ChatGPTは米国のAI研究所「OpenAI」が開発した。チャットの画面に質問を入力すればAIが膨大なデータをもとに自然な言葉遣いで回答してくる。用途は用語解説、作詞、プログラミングなど幅広い。

記事添付の写真は同じOpenAIが開発した画像生成AI「DALL-E (ダリ) 2」を使っている。依頼したのは書類を食べるブッシュ氏の愛犬。こちらも入力から数十秒後に完成した。写真のようにみえるが、AIが描いた架空保障上の懸念の原因にな

悪用防ぐ規制 課題

実はChatGPTに実在する団体や人物を中傷する内容の記事の作成を依頼すると「偽の情報や読者をミスリードする内容の記事は書けない。こうした情報の拡散は倫理に反し、無責任だ」と拒む。だが、ニセ記事を作るためだと目的を明かせば可能だ。選挙の際にニセ記事を作ったと広めれば有権者の投票行動も操作できるかもしれない。

悪用を防ぐ規制が課題となる。

一方、正しく使えば報道の充実につながる。1月26日、米ネットメディア「バズフィード」がOpenAIを編集作業の支援に活用していると伝わる。同社の株価は一時4倍に跳ね上がった。(ワシントン・赤木俊介)

社説

2023.2.5

社会は生成AIの進化にどう向き合うか

生成AI(人工知能)と呼ばれる新技術が注目を集めている。人の指示に応じて文章や画像、プログラムコードなどを自動で生成する技術で、社会全般に大きな影響が及ぶだろう。新技術とどう付き合つか、社会の知恵が問われる。

生成AIのなかでも脚光を浴びるのが、米オープンAIが2022年11月に公開した「チャットGPT」だ。対話形式で質問すると、自然な文章で答えが返ってくる。実際に試してみると、AIのコミュニケーション能力が人間にかなり近づいたと実感できる。利用者の数は世界で1億人を超

えたとき、ロイター通信は「史上最も高速で成長している消費者向けアプリケーション」を報じた。米マイクロソフトがオープンAIに数十億、規模の巨額の追加出資をするにも決まった。

このAIにチャットなどによる問い合わせ対応を委ねることも可能だろう。観光案内などの多言語対応を支援するオープンAI(東京・港)の北見好弘社長は「単に質問に答えるだけでなく、AI自身が話題を広げてお薦めの飲食店を紹介することもできる。消費喚起につながる」と期待する。例

えば「半導体の歴史を教えてください」と打ち込むと、トランジスタの発見に遡る技術開発の歴史を簡潔にまとめてくれた。うまく使えば各種の資料や文書の作成、プログラミングといったホワイトカラー業務の生産性が大きく高まるだろう。

一方で課題も大きい。ひとつは「悪用」対策だ。詐欺のための偽メールやフェイクニュースを巧妙かつ大量につくることが容易だ。AIが進化したおかげで、社会が混乱するまでは困る。自由で開かれた社会を守るために、AIをどう使えばよいかの社会的合意や規範を政府や市民も交えて早急に形

成する必要がある。

AIが学習する元のデータは、バイアスを受け継いでしまっている。AIにどんなデータセットを学ばせるかなどについて、AI企業にはオープンかつ透明性の高い対応が求められる。

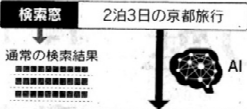
コロナ禍が迫る地銀再編加速

コンコルディア・フィナンシャルグループ(FG)の中核である横浜銀行が3日、神奈川県銀行の買収を決めた。この地銀再編には規模よりもむしろ、象徴的な意味合いがある。首都圏でも初めて、同一県内で「地銀一行(グループ体制)」に集約されるからだ。

最後に独占の問題がある。チャットGPTなどの大規模言語モデルのAIは「万能AI」とも呼ばれ、あらゆる知的作業をこなせる可能性がある。こうした技術を握りの企業が専有すれば、社会的な影響は莫大だ。各国政府による早めの対応が重要になる。

新型コロナウイルス禍による企業などの苦境を踏まえて政府が導入し、40兆円超に膨らんだ実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」の返済が今後、本格化する。利用者の多くが地銀など地域金融機関の取引先である中小事業者だ。通常融資への円滑な借り換えや

マイクロソフトの新しい検索



こんにちは、これは Bing です。◎
2泊3日の京都旅行について、いくつかのおすすめプランをご紹介します。
・人気スポットから穴場まで！はんなり「京都2泊3日プラン」はこれだ！
◎1日目：京都駅から伏見区周遊を観光。伏見稲荷大社や伏見黒山城などの名所を巡ります。
◎2日目：京都駅から嵐山方面へ。嵐山の渡月橋や竹林

AI、対話型検索で身近に

マイクロソフト・グーグル導入へ

自然な文章で回答

人工知能(AI)が暮らしに身近になってきた。マイクロソフトは7日、インターネットの検索エンジンに人間が書くような文章で回答する機能を組み込むと発表した。対話型のAIの技術を活用する。米グーグルも近く導入する。ネットの情報が膨大になるが、必要な情報を早く得られるようにすることを目指す。正確性と差別化の観点からは課題も残る。

正確性・差別懸念も

「ネット検索に再びイノベーションを起す」。7日に米シアトル郊外の本社で開いた発表会で、マイクロソフトのサティア・ナダラ最高経営責任者(CEO)は胸を張った。
マイクロソフトが投資する米新興企業のオープンAIが開発した「ChatGPT」チャットGPTの技術を活用し、検索エンジン「Bing」に取り入れる。日本語も含め7日から順次利用できることになる。知りたい内容についてこれまでも同様の検索結果と

もに、人間が書くような文章だ。
自然な文章で回答する。例えば、検索窓に「2泊3日の京都旅行」と目当ての検索結果が2つ表示される。一つは知本語で打込むと、ウェリという情報を得るスピードのリンクが表示された。現在の検索は入力した提案するお題の旅程が表示される。質問を続けると、人々の土産や京都の観光に詳しいという説明を受けられ、京都の観光に詳しいという情報を得る。京都の観光に詳しいという情報は得られる。新定義や客が明確なもの

質問1000字までOK

店探し、古い情報も

マイクロソフト製 記者がやってみた

【シアトル・佐藤浩一】 米マイクロソフトが人工知能(AI)の技術を活用し、従来の検索エンジン「Bing」を米シアトル郊外の本社で記者が試してみた。
「何でも聞いてください」という新しいBingのサイトを開くと、表示された。検索窓には1000文字まで打ち込める。日本語でも使えることが「シアトルの空港から30

たな検索では検索結果の表示だけでなく、質問に合った回答まで表示された。知りたかった情報を目的にした地図に例えると、対話型AIは「ナビゲーター」の役割を担う。目的地までの様々な経路を瞬時に処理し、利用者を最短経路で目的地に導くイメージだ。
AIは人間の質問の意図を的確に理解し、回答する能力を得た。AIの「頭脳」はネットの膨大なデータを学習し、利用者は会話するように欲しい情報を整理された形で手に入られる。情報の探索範囲も広がる。昔を調べるとに新技術や客が明確なもの
「グーグルはマイクロソフト陣営に華色のない高AI量子エディター生

ただでなく、一気候変動を解決するにはどうすればいい」といった複雑な質問にも回答する。内容が完璧ではなくても、客が完璧でなくても、グーグルが17年に発表した「AIが得られる」
検索エンジンはグーグルが世界シェアの9割を持つ。マイクロソフトは3%に過ぎない。AIを組み合わせて検索という利用者に最も身近な「体験」をつくり変えることがグーグルに對抗する狙いがある。
マイクロソフトの攻勢にグーグルの危機感も強い。グーグルのスタンリー・チヤイCEOは6日、自社開発の対話型AI「Bard」を数週間以内に公開すると明らかにした。サイバー攻撃などに活用される懸念から、一般向けの事業に広く活用することに慎重だった。適切な形で市場を育てる必要がある。
グーグルはマイクロソフト陣営に華色のない高AI量子エディター生

切り替わった。「何時まで開いているか」と尋ねると「営業時間は毎日6am-9pmです」と教えてくれた。

スタバの公式サイトで確認した1号店の営業時間は午前7時から午後6時。AIが参照したサイトには午前6時から午後9時と書いてあり、古い情報を引用してしまっていた。マイクロソフトは誤りが発生することがあると認めており、間違いがあった場合の「フィードバック」を受け取るタブを設けて「正確性を高めていく」としている。